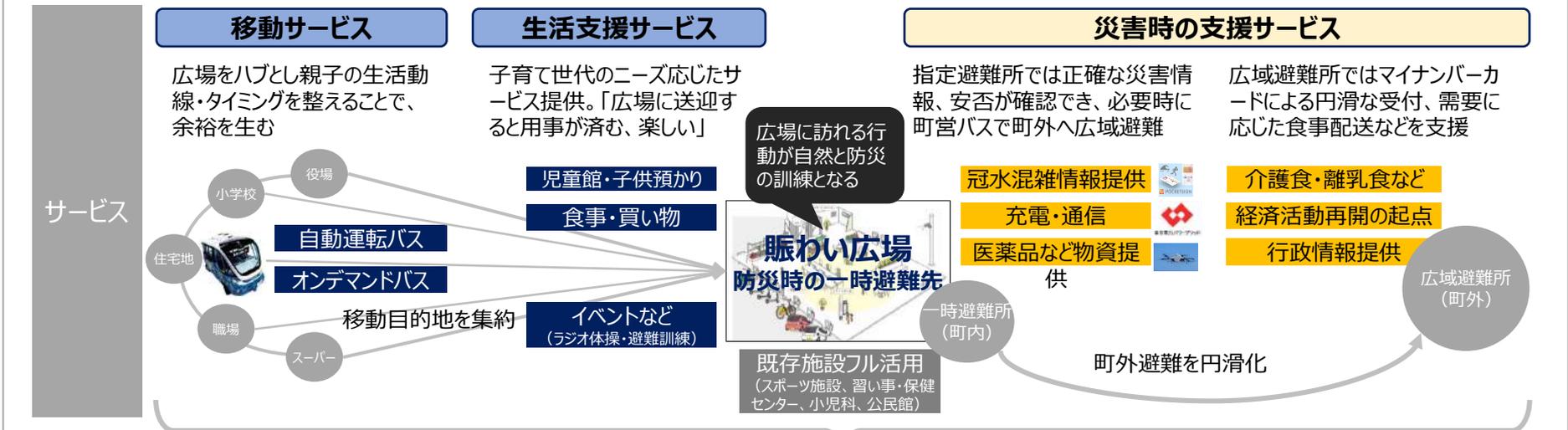


事業概要 (1/3) 【河岸の街さかいデジタル化推進事業 ～災害に強く、未来を創る子供に優しいまちづくり～】 ※公表資料として作成すること。

自治体名	茨城県境町	人口	23,782人	事業費	407,962千円
概要	災害に強く、未来を創る子供に優しい境町を実現する。当町では、平時の課題として「子供が単独で移動困難であり、親の送り迎えの負担が大きい」、災害時の課題として「水害時の避難体制」がある。 同課題を解決するために「賑わい広場」を設け、平時は子供を中心とした賑わい空間及びモビリティハブ機能を提供し、災害時は一時避難所として、情報・物資・電源・通信環境等を提供する。				



課題	町として目指す“子育て支援日本一”のための取り組み <ul style="list-style-type: none"> 道路が狭く、大型車の通行や交通量が多い中、安心して子供が自由に移動できる手段が必要 子育て世代の親にとっても子供の送迎などで時間の制約等が生じており、生活動線を整えるニーズが高い 	町全域が深水区域に指定、町外への円滑な避難プロセスが必要 <ul style="list-style-type: none"> 災害時は道路の冠水、渋滞が予想され、正確な情報提供が求められる 町外への避難を円滑にするため、町内では比較的標高の高い一時避難場所から、適切な避難を行う必要がある
----	---	--

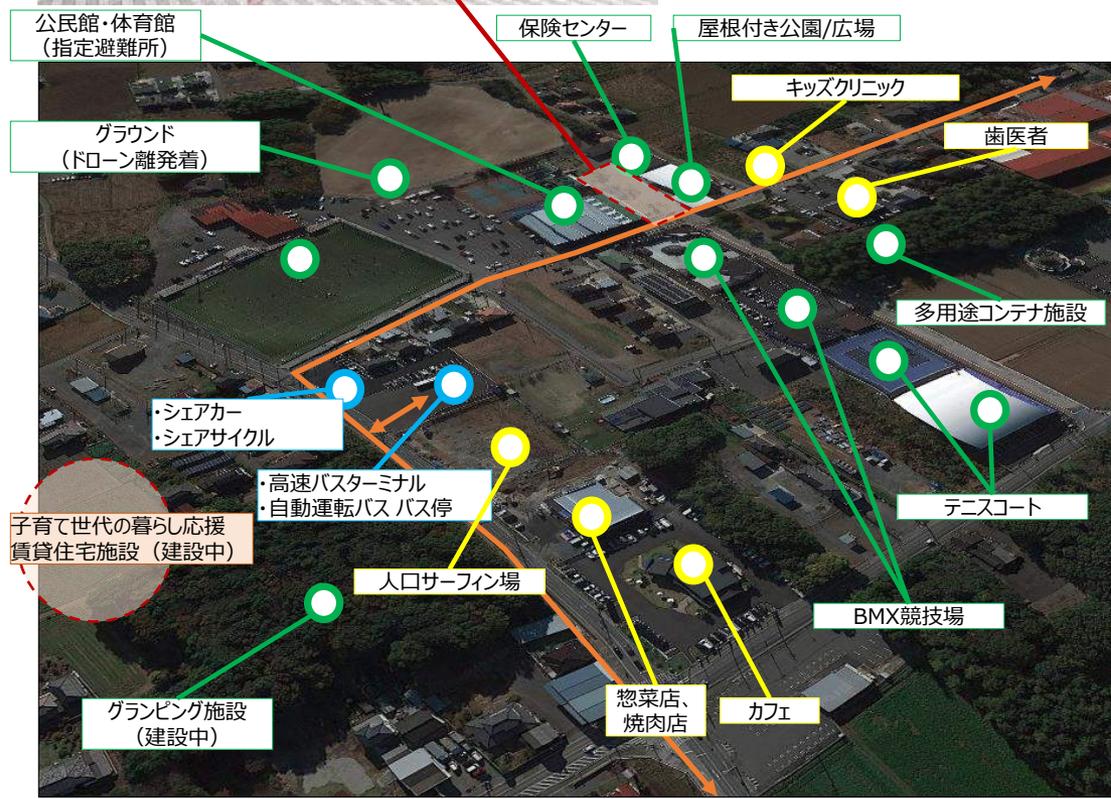


- サービスを支える仕組み
- 人流・属性による利用・避難状況の可視化
 - マイナンバーカード利用でポイント付与・本人証明
 - データ連携基盤で住民の行動変容の可視化



賑わい広場のエリアは子育て世代にとって必要な機能が揃うものの、それぞれが施設・サービスとして分断されている傾向が強い。

デジタルを活用してそれらの施設、サービスをデマンドに合わせてソフトを中心に調整する事で、生活動線が整い、日常の過ごし方に余裕が生まれ、Well-Beingにつながる想定



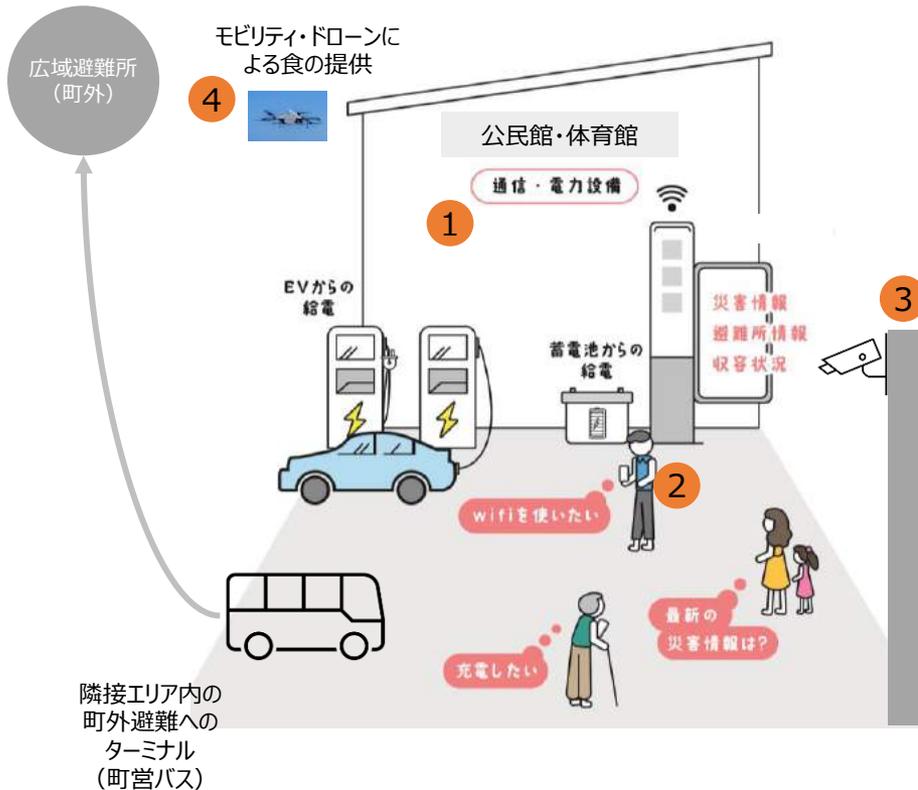
賑わい広場のエリアは町内では標高が高い場所に位置する。町外避難を町としては推奨しているが、逃げられない住民や、町外避難に至る一時避難先として必要な情報、町外避難用町営バスなどの移動手段の確保などを集約する

- 自動運転バスルート
- 公共施設
- モビリティ関係施設
- 病院・民間施設

事業概要 (3/3) 【河岸の街さかいデジタル化推進事業 ～災害に強く、未来を創る子供に優しいまちづくり～】 ※公表資料として作成すること。

自治体名	茨城県境町	人口	23,782人	事業費	—
概要	日常使っている広場に必要最低限の機能を確保、スマホアプリによる情報提供や、カメラでの混雑状況把握、発信によって円滑な町外への広域避難を促す				

災害時のにぎわい広場の活用イメージ



にぎわい広場の概要及び搭載する機能

■ にぎわい広場の概要

- 緊急時の一時避難先として、最低限の安全とインフラを確保可能な場所

■ 提供する機能とアセット

- 1 電力・通信機能**
 - 非常用通信供給
 - 蓄電池、コネクタを活用したEV等からの電源供給
- 2 情報提供機能**
 - 人流計測用のカメラ・センサーによる避難所混雑状況の提供
- 3 受付機能**
 - マイナンバーによる本人確認・避難所受付。介護食や離乳食などの必要な食事を登録情報で一元管理
- 4 食の輸送機能**
 - モビリティによる需要に合わせた食の配送